



TITLE:

科研費申請支援を基軸とした『研究支援の好循環』

AUTHOR(S):

田上, 款; 稲石, 奈津子; 橋爪, 寛; 関, 二郎

CITATION:

田上, 款 ...[et al]. 科研費申請支援を基軸とした『研究支援の好循環』.
2016: P_50.

ISSUE DATE:

2016-09-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/234540>

RIGHT:

P_00 科研費申請支援を基軸とした『研究支援の好循環』

田上 款、稲石 奈津子、橋爪 寛、関 二郎（京都大学 学術研究支援室（KURA））

要旨

URAによる理想的な科研費支援とは何か？一つの答えは、支援を実施した科研費の採否に留まらない『持続的な研究発展への貢献』ではないだろうか。

京都大学では、2012年に学術研究支援室が設置され、「科研費の教科書」の発行を皮切りにURAによる種々の科研費支援を実施してきた。2013年からは、各部局にURA室が設置されたことによるスケールメリットを生かして「研究者個人に向けた申請書支援体制の充実」も模索してきた。このように科研費支援の規模を拡大する中で、支援採択率の向上に加え、支援を実施した研究者による他の外部資金の獲得や共同研究の開始など、科研費に留まらない『研究支援の好循環』が芽吹き始めている。

本ポスター発表では、京都大学URA組織の科研費支援の進捗を振り返りながら、科研費を基軸とした『研究支援の好循環』を達成するために、我々が実施すべきことについての議論を行いたい。

KURA科研費支援のポイント

Point1: 年間を通して多彩な「科研費支援メニュー」を提供
→研究者は科研費の規模や段階に応じて支援の選択が可能



科研費支援実績

申請支援・採択数

| | 採択数／申請数（採択率） | | | | | |
|-------------|---------------|----------------|----------------|-----------------|-----------------|-------------------|
| | H23科研費 | H24科研費 | H25科研費 | H26科研費 | H27科研費 | H28科研費 |
| 全学 | 311/713 (44%) | 745/1669 (45%) | 927/2328 (40%) | 1028/2614 (39%) | 1016/2935 (35%) | 1039/2640** (39%) |
| 名誉教授* アドバイス | 20/60 (33%) | 30/81 (37%) | 24/88 (27%) | 28/107 (26%) | 36/92† (39%) | 32/72† (44%) |
| URA** アドバイス | | | | 73/145 (50%) | 70/162 (43%) | 113/272† (42%) |
| | 若手A、B | 若手A,B, 基礎C | | | | 全種目 |

* 京大・名誉教授が専門的視点からアドバイスを実施 **京大・URAが審査の観点からアドバイスを実施
† 名誉教授アドバイスに加え、URAによる補完的アドバイスを実施
‡ 特設分野等、一部のデータは含まれていない暫定値

研究者を知る最良の機会

継続的な研究支援に展開

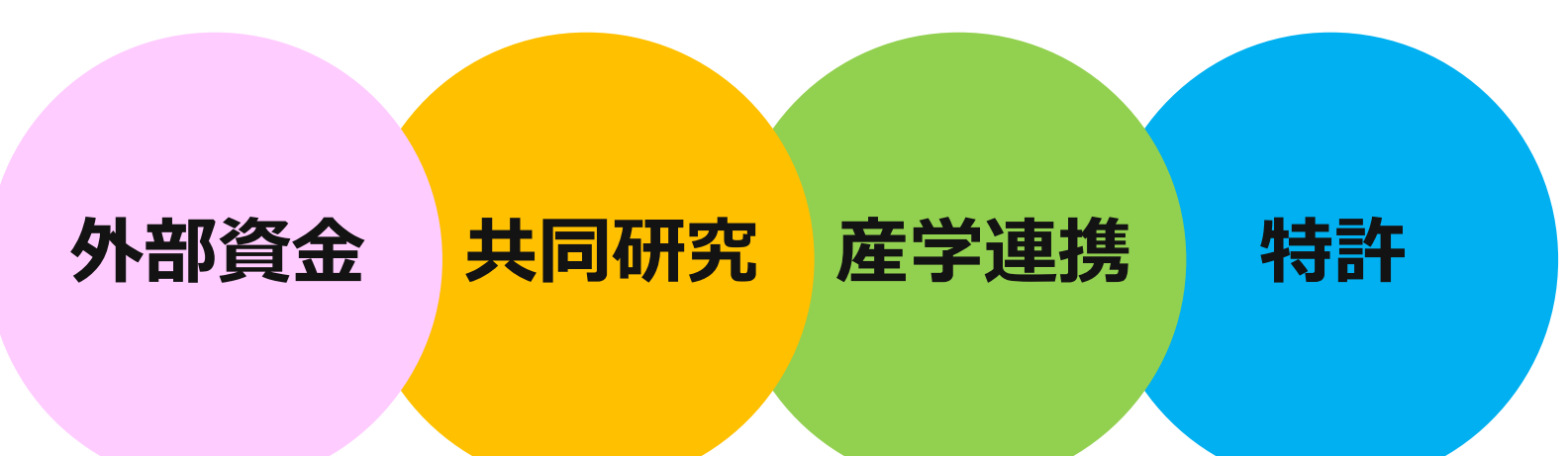
科研費支援の循環

科研費支援 KAKENHISHIEN

面談やメールによるアドバイス
研究者とURAのディスカッション
URA同士のディスカッション



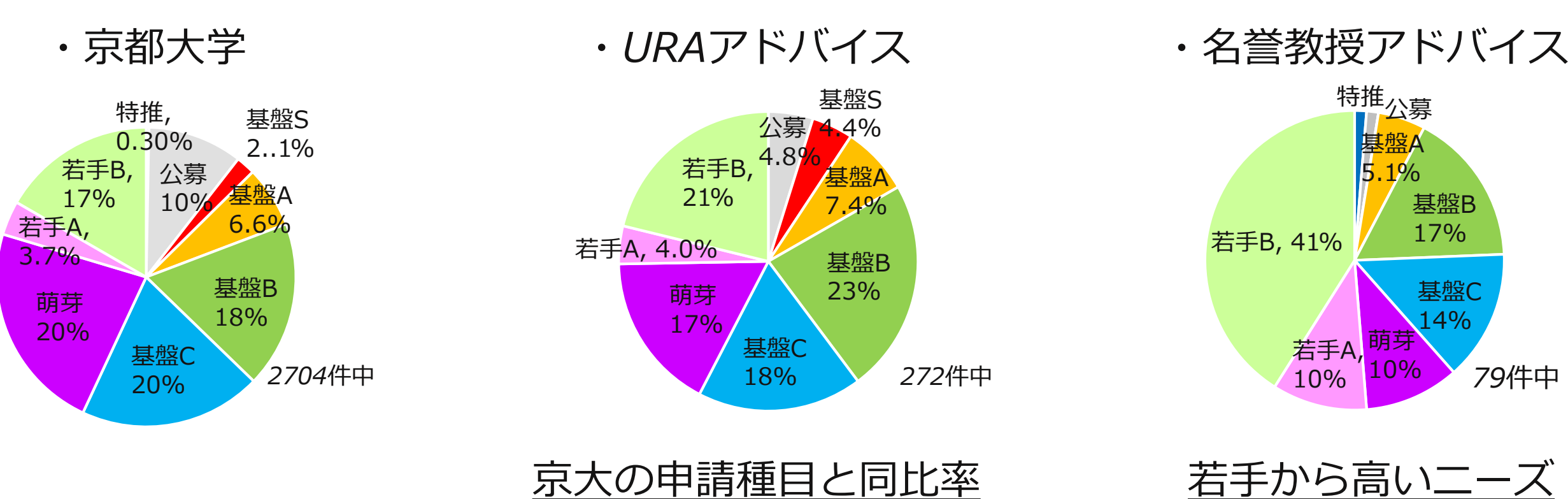
採択数・率の向上
研究者との信頼関係
研究の理解



具体例
NEDO SATREPS... 各種共同研究 相談・提案・出願 出資事業案件
不採択案件からも次へ

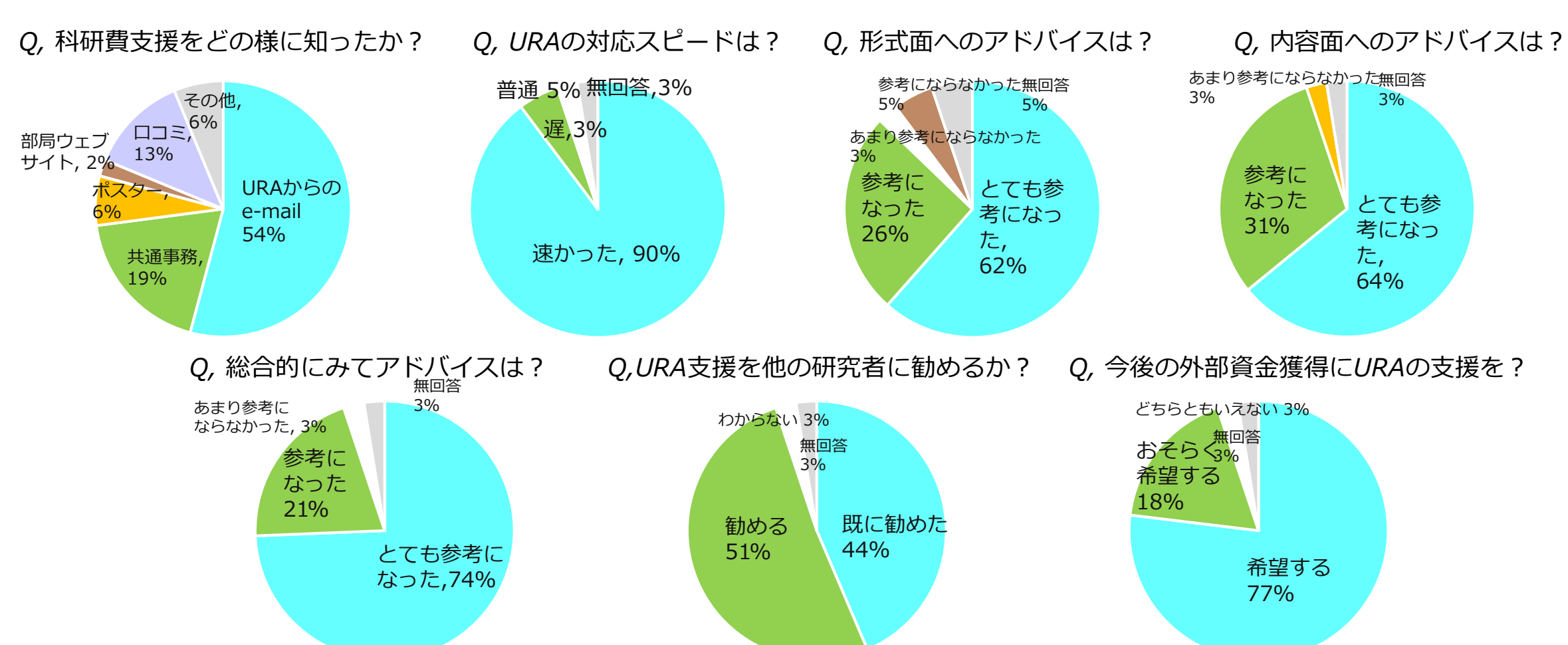
支援により採択率が向上(したかもしれない)

種目別科研費支援状況



URAには学内の幅広い研究者層からのニーズ

URAアドバイス-研究者フィードバック



研究内容面へのアドバイスにも高い評価

今後の課題と展望

・研究支援循環の加速

“生きた”研究者情報の蓄積
共同研究、特許の提案 → 戦略的資金獲得



・支援スキルの可視化

個人ノウハウの收拾・蓄積
“科研費支援の教科書”の作成



・研究現場の課題発見

申請支援から見える現場課題の発見
→ 研究環境の最適化

